

第二五九回ペン川柳会

令和七年十二月二十二日

■ 稲宮（井波）
いなみ

白熱の黒の叫びがジャズを生む
黒船か今は遼寧悩ましや

お題「黒」

ウイスキ

■ 浜田（我々好）
のみすけ

米寿過ぎ喪服の出番グッと減り
青竜刀鉄の首をば切れるかな？

■ 大森（呑助）
のみすけ

素人（しろうと）が玄人（くろうと）がつて赤つ恥？
取り調べ白状したぞ、いつあクロ！

■ 塚田（拿々）
だだ

永田町未だ晴れない黒い霧
颯爽と黒髪よぎる銀座裏

■ 中村（アキチャン）

思い出す粹な黒垢乱れ髪

公私とも黒子に徹し今日がある

■ 安藤（晃二）
てるつぐ

歯が触れて唇と知る真の闇
黒古木桜紅葉の裾模様

■ 西川（醉雅）
すいが

黒髪を思い出しては顔緩め
白よりも黒多かつた我が人生

ウォツカ

■ 三春（火酒）

雀チユン消えて TOKYO 烏カアー
菜切りより出刃がいいぜとムシヨ帰り

れいもん

■ 松谷（零門）

風呂上がり鏡に映る黒ニカ所
黒インク買つて十年まだ活ける

■ 大野（だし）

白も黒ももう考える余裕ない
どうせ俺いつも黒だと売られてた

世話人 塚田 實（拿々）
だだ